第５章 施設計画

第３章で整理した施設の方向性を基に、主催者の意向や地下鉄駅・中島公園・隣接ホテルとの接続を加味し、歩行者・車両動線等を検討の上、利用者等の利便性を十分に確保できるよう、モデルプランを作成しました。



１ 配置・動線計画

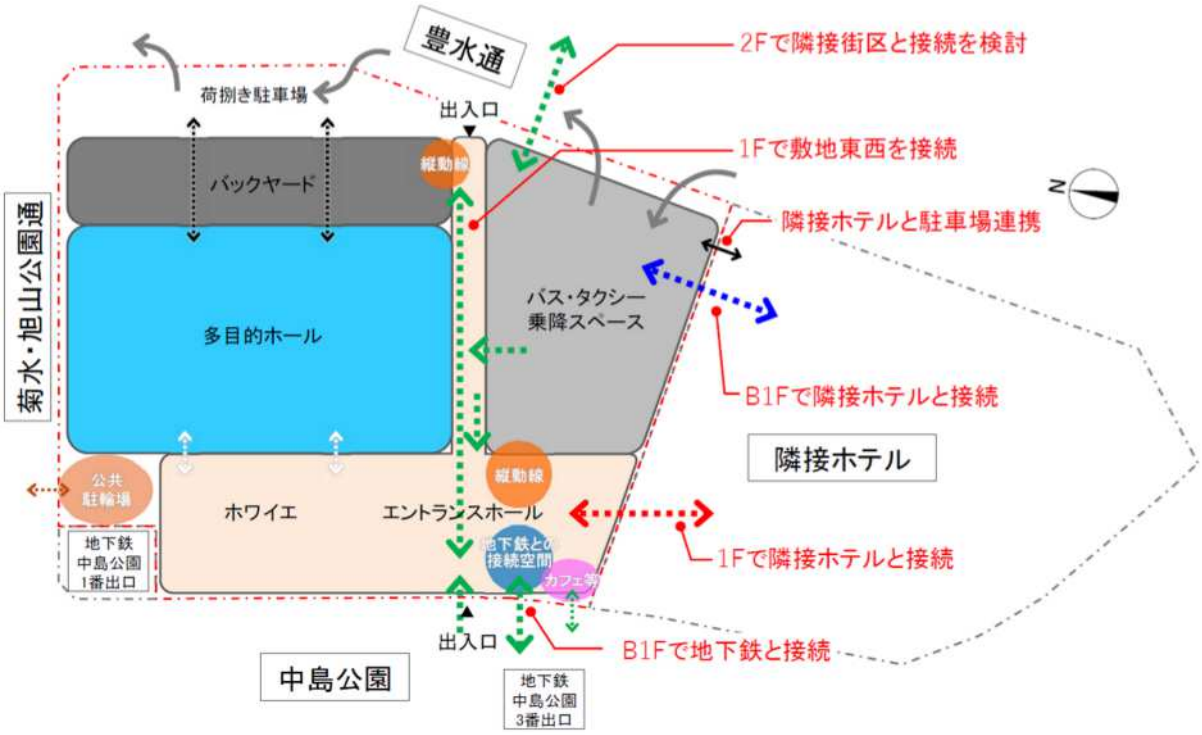
利用者の多くは地下鉄で来場することが予想されることや、中島公園との連続性、周辺景観の確保の観点から、メインエントランスやホワイエは敷地の西側に配置することとします。また、公園東通線からの車両の進入を想定し、車寄せや荷捌きスペースは敷地の東側に配置します。

隣接ホテルとの一体的な利用を可能とするため、施設の接続により利用者動線とサービス動線を確保するとともに、景観上の調和を意識したデザインとします。

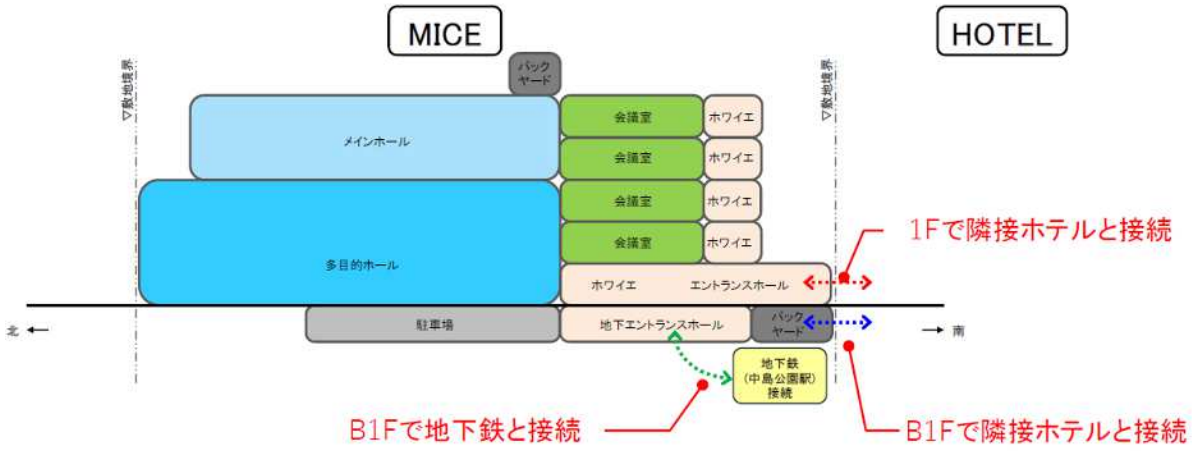
地域の回遊性を高め、東側街区の住民等が中島公園駅等へアクセスしやすくするため、東西を貫通する公共通路を設けるとともに、東側街区と空中歩廊等で接続することを検討します。このほか、中島公園駅１番出口の周辺に公共駐輪場を設けるなど、地域住民の利便性の向上にも寄与する計画とします。

上記を踏まえた配置や動線のイメージ図を以下に示します。

配置イメージ図　兼　動線イメージ図



断面イメージ図　兼　動線イメージ図



2　平面計画

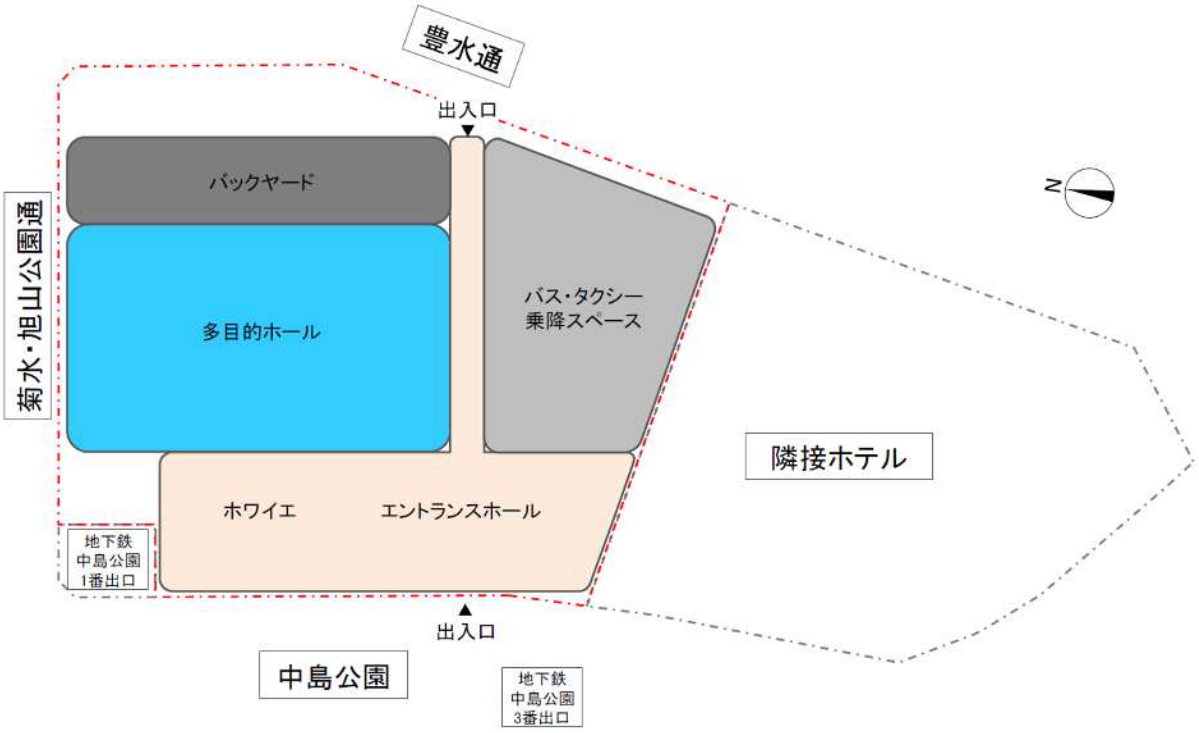
これまでの検討を基に各階のモデルプランを作成し、施設全体の規模について下表のとおりまとめました。

諸室	面積
ホール・会議室計	**約 8,600 ㎡**
メインホール	約 2,000 ㎡
多目的ホール	約 3,200 ㎡
会議室（15 室）	約 3,400 ㎡
共用部（ホワイエ、エントランスなど）	**約 10,400 ㎡**
駐車場・車寄せ	**約 5,400 ㎡**
バックヤード（倉庫、機械室、控室など）	**約 14,000 ㎡**
施設総面積	**約 38,400 ㎡**

・多目的ホール階のイメージ（１階）

１階には、展示やイベント、中規模のコンサート、大規模インセンティブツアーなども開催可能な 3,200 ㎡の多目的ホールを配置します。ホワイエは、北海道・札幌らしさを感じられ、ゆとりのある空間とするとともに、中島公園との一体性・連続性にも配慮します。また、東西を貫通する公共通路を設けることで、地域の回遊性を高めます。

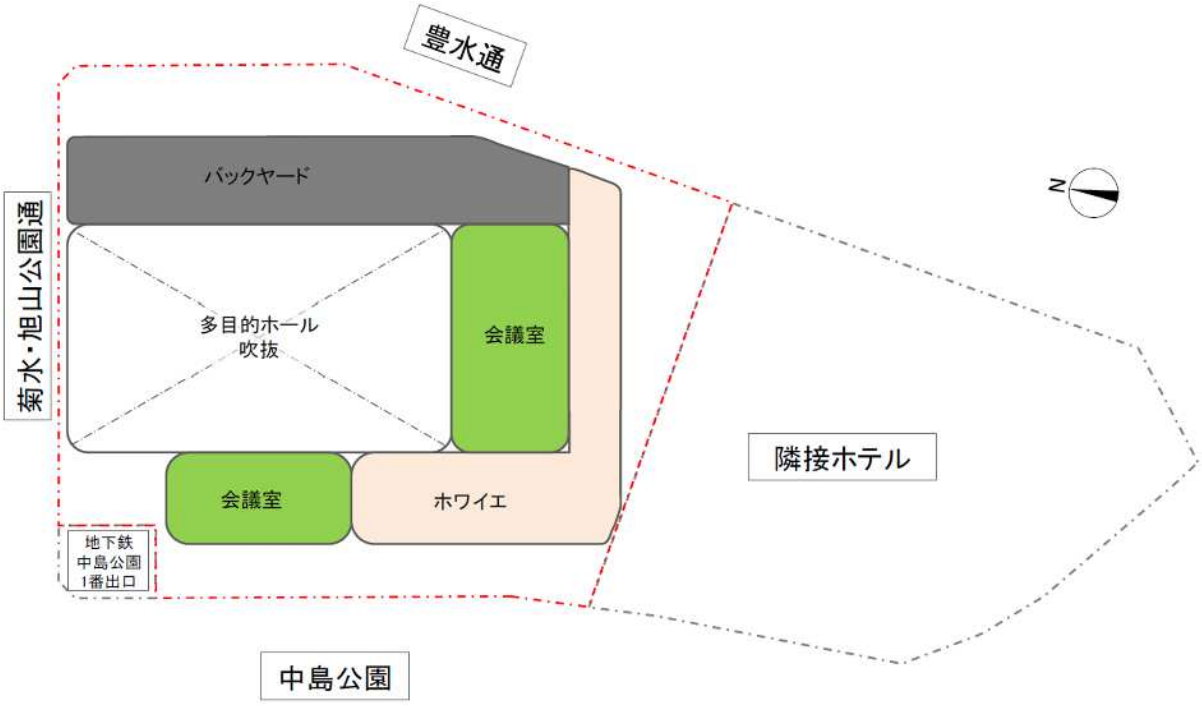
各階平面イメージ図



・会議室階のイメージ（２～５階）

会議室は２～５階に分散して配置し、大規模学会の開催を見据え、多数の分科会やバンケットや地域のサークル活動などの平行開催ができるよう、一定の室数を確保します。また、市民の方々の様々なニーズにも柔軟に対応するため、会議室は、多様な大きさ、かつ分割して利用できる計画とします。また、２階には東側街区と接続する空中歩廊等の設置を検討します。

各階平面イメージ図



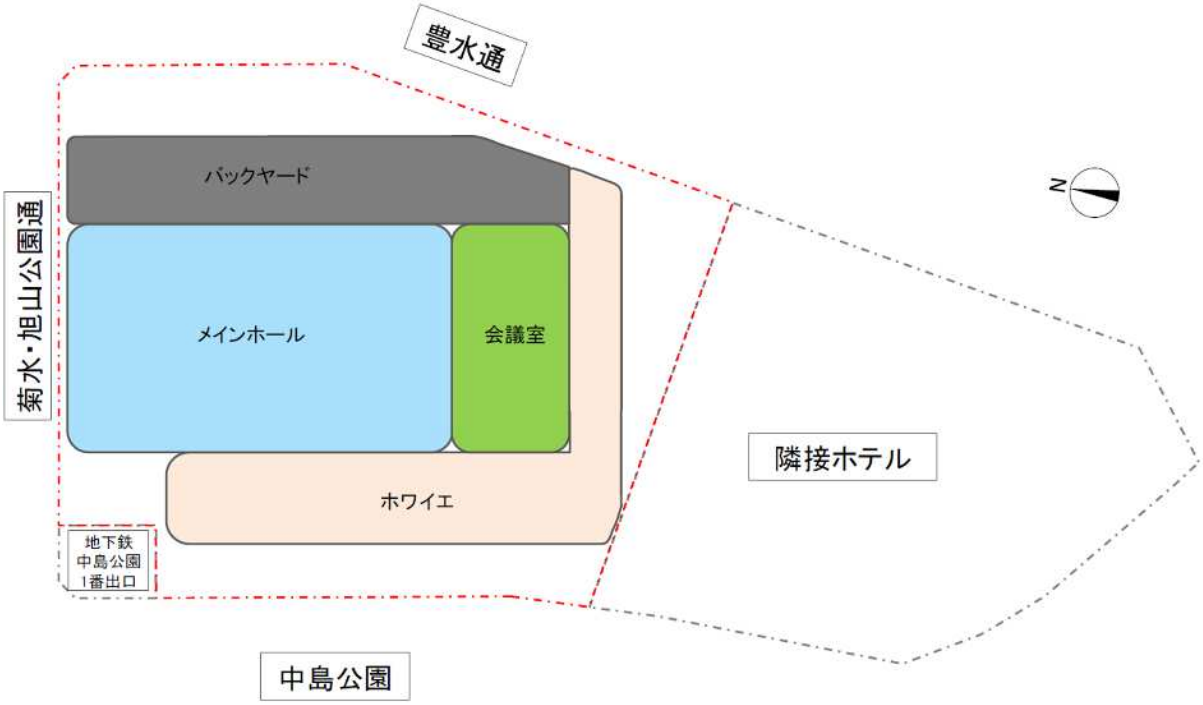
内観イメージパース（ホワイエ）



・メインホール階のイメージ（４階）

メインホールは４階に配置し、学会・セミナー・企業会議・インセンティブツアーなどを幅広く受け入れられる設えとするほか、比較的小規模なコンサートやディナーショー、パブリックビューイングなど、市民のエンターテインメント利用への対応も検討します。また、可能な限り天井高を確保するとともに、大型の壁面ＬＥＤビジョンや可動式のＬＥＤビジョンなどの導入も検討します。加えて、機材等が搬出入しやすい動線のほか、十分な広さのホワイエやパントリー[17]を確保するなど、運営のしやすさにも配慮します。

各階平面イメージ図



内観イメージパース（メインホール）

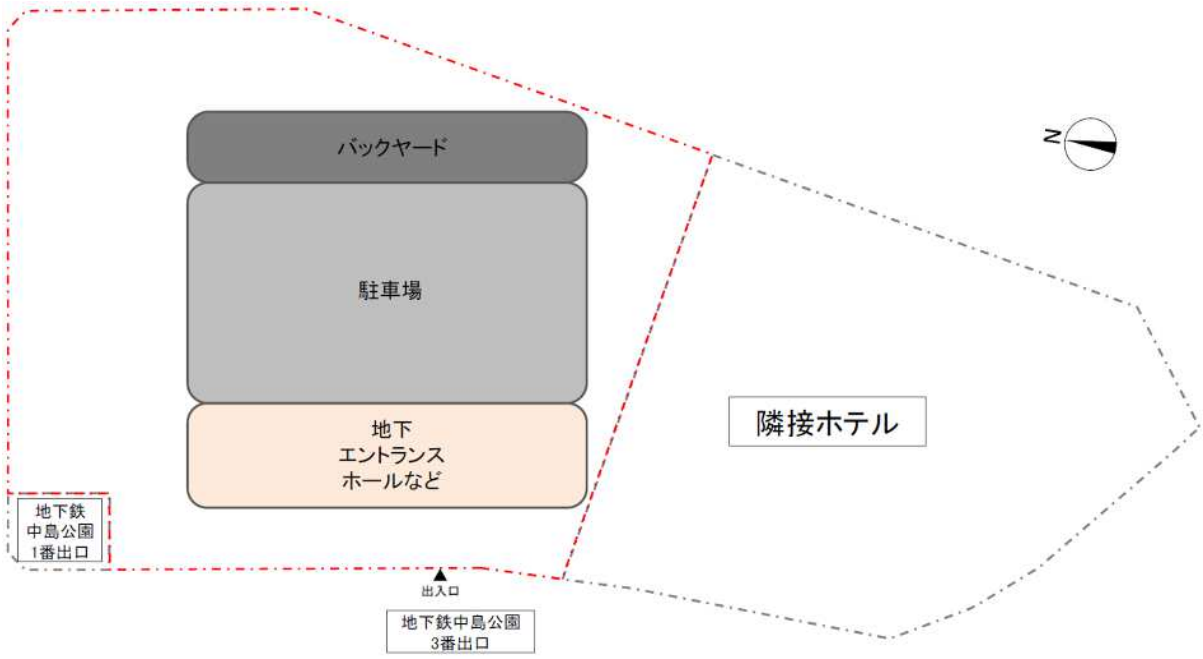


[17] パントリー：会議、展示会、バンケット等における飲食提供を支援するための準備・配膳スペース

・地下鉄接続階のイメージ（地下１階）

地下鉄南北線中島公園駅とは地下１階で接続します。これにより、ＭＩＣＥ参加者は主に地下鉄をはじめとする公共交通機関を利用して来場することを想定しています。また、隣接ホテルとの飲食・ケータリングサービス等の連携を有機的に機能させるため、隣接ホテルとの接続によりサービス動線を確保します。

各階平面イメージ図



３　将来交通量の検証

新ＭＩＣＥ施設の整備後に周辺道路に与える影響について検証を行いました。新ＭＩＣＥ施設で開催される最大規模の催事として 5,000 人規模の学会と 3,500 人規模のコンサートを想定し、平日と休日におけるそれぞれの将来交通量を算出のうえ交通状況評価を行ったところ、周辺交差点等での渋滞は発生しない見込みであることが確認されました。

ただし、自動車交通需要に対して施設内の駐車場台数が不足することも予想されるため、公共交通の利用促進など、運営面での対策が必要です。

４　環境配慮

近年、温室効果ガスの削減目標の達成に向けて、先進的な建築設計によるエネルギー負荷の抑制や高効率な設備システムの導入等により、室内環境の質を維持しつつ大幅な省エネルギー化を実現した上で、太陽光発電システム等の導入によりエネルギーを創ることで一次エネルギー消費量の収支「ゼロ」を目

指す取組（ＺＥＢ[18]）が注目されており、本市においても、令和３年（2021 年）策定の「札幌市気候変動対策行動計画」にて、今後新築する市有建築物についてはＺＥＢ化を目指すこととしています。

また、ＭＩＣＥ分野では、環境に配慮した「サステナブルＭＩＣＥ」[19]の開催がグローバルな潮流となっており、国際会議の誘致活動においても、施設の環境性能が重要な要素となっています。

新ＭＩＣＥ施設の整備にあたっては、国際的な誘致力を強化するため、エネルギー負荷を抑制した建築設計に加え、設備システムの高効率化による省エネルギー化や再生可能エネルギーの活用などを検討し、ＺＥＢ Ｒｅａｄｙ[20]相当以上の環境性能を目指します。

５ ユニバーサルデザインへの配慮

本施設は、国内外から外国人、高齢者、障がい者などを含む多様な参加者を広く呼び込むための国際的な拠点となります。そのため、あらゆる来訪者が安全・快適に利用できるようユニバーサルデザインに配慮した施設づくりを進めます。

具体的には、車いすやベビーカー等でもスムーズに移動できる段差のない動線の確保や、誰もが使いやすいトイレ等の整備、多様な言語や特性に配慮した分かりやすい案内サインの設置、多様な文化や宗教的背景・生活習慣に配慮した空間づくりなど、利用者の視点に立った施設計画とすることで、施設の価値や国際的な競争力を高め、ＭＩＣＥ開催地として選ばれる施設を目指します。

---

[18] ＺＥＢ：快適な室内環境を維持しながら、省エネルギー化と再生可能エネルギーの活用により、年間の一次エネルギー消費量の収支ゼロを目指す建築物

[19] サステナブルＭＩＣＥ：環境負荷の低減や地域社会への貢献、多様性への配慮など、持続可能性の観点を取り入れて開催・運営されるＭＩＣＥのこと

[20] ＺＥＢ Ｒｅａｄｙ：ＺＥＢを見据えた先進的な建築物。高断熱化や高効率設備の導入により、再生可能エネルギーを除いて基準一次エネルギー消費量を 50%以上削減した建築物